

# 四半期報告書

(第89期第2四半期)

自 平成24年7月1日  
至 平成24年9月30日

京都市東山区一橋野本町11番地の1

**三洋化成工業株式会社**

E 0 0 8 8 4

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	8

#### 2 役員の状況

8

### 第4 経理の状況

9

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	12
四半期連結損益計算書	12
四半期連結包括利益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14

#### 2 その他

20

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

21

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第89期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	三洋化成工業株式会社
【英訳名】	SANYO CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 安藤 孝夫
【本店の所在の場所】	京都市東山区一橋野本町11番地の1
【電話番号】	075 (541) 4314
【事務連絡者氏名】	総合事務本部副本部長兼経理部長 小寺 昭芳
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル
【電話番号】	03 (5200) 3400
【事務連絡者氏名】	東京支社総務部長 大隅 辰也
【縦覧に供する場所】	三洋化成工業株式会社 東京支社 （東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル） 三洋化成工業株式会社 大阪支社 （大阪市中央区本町一丁目8番12号日本生命堺筋本町ビル10階） 三洋化成工業株式会社 名古屋営業所 （名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号名古屋三井ビル本館16階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

(注)上記の東京支社、大阪支社及び名古屋営業所は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第2四半期 連結累計期間	第89期 第2四半期 連結累計期間	第88期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高（百万円）	71,031	70,681	141,041
経常利益（百万円）	4,191	3,456	6,958
四半期（当期）純利益（百万円）	2,468	1,910	3,704
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	2,013	611	4,370
純資産額（百万円）	89,246	89,898	90,526
総資産額（百万円）	142,885	150,984	149,196
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	22.38	17.32	33.59
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（%）	60.1	57.5	58.5
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	3,696	7,268	8,872
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△5,429	△6,062	△11,473
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,199	334	42
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	8,979	10,813	9,360

回次	第88期 第2四半期 連結会計期間	第89期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	8.71	6.70

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の「主要な経営指標等の推移」については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(4月～9月)におけるわが国経済は、震災復興需要を背景に緩やかに回復しつつありましたが、長期化する円高や欧州債務問題をめぐる不確実性が依然として高い中、中国経済の成長率鈍化とともに世界景気の減速感が強まるなど、厳しい状況が続いております。

化学業界におきましては、円高の継続に加え需要の減退や原燃料価格の先行き不透明感が強まるなど経営環境は厳しい状況にあります。

このような環境下における当第2四半期連結累計期間の売上高は、706億8千1百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

利益面では、売上高の減少と原燃料価格の上昇などにより、営業利益は29億8千6百万円(前年同期比11.5%減)、経常利益は34億5千6百万円(前年同期比17.5%減)、当期純利益は19億1千万円(前年同期比22.6%減)といずれも前年同期比で減益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### <生活・健康産業関連分野>

生活産業関連分野は、液体洗剤用界面活性剤やヘアケア製品用界面活性剤などの需要が低調に推移したこと、およびポリエチレングリコールなどの製品において東日本大震災の影響による応援(受託)生産が無くなったこともあり、低調な売上高となりました。

健康産業関連分野は、紙おむつ用高吸水性樹脂の世界的な需要拡大を受け、昨年6月中国で増設した年間生産能力7万トンの高吸水性樹脂製造設備の稼働が寄与し、売上高が大幅に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は266億6百万円(前年同期比3.8%増)となりましたが、営業利益は原燃料価格の上昇や固定費の増加により11億7千6百万円(前年同期比29.9%減)となりました。

#### <石油・輸送機産業関連分野>

石油・輸送機産業関連分野は、国内の自動車生産が回復したことにより、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料は、国内向け売り上げが大きく増加しましたが、海外向けが振るわず横ばいとなりました。一方、潤滑油添加剤が省燃費対応エンジンオイル用潤滑油の需要拡大やこれに適した新製品の上市で大きく売り上げを伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は169億1千万円(前年同期比9.4%増)、営業利益は5億7千7百万円(前年同期は4千4百万円)となりました。

#### <プラスチック・繊維産業関連分野>

プラスチック産業関連分野は、塗料・コーティング用薬剤などの拡販がありましたが、電子部品搬送トレーなどに使用される永久帯電防止剤の需要が低迷を続けていることに加え、一部製品において東日本大震災の影響による応援(受託)生産が無くなったこともあり、売り上げは横ばいとなりました。

繊維産業関連分野は、合成皮革・弾性繊維用ウレタン樹脂の需要が低調に推移し、さらに、欧州市況の悪化を受け、中国を中心とした海外向けのガラス繊維用薬剤や炭素繊維用薬剤の需要が減少したことなどにより、売上高は大幅に減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は87億5千5百万円(前年同期比9.7%減)、営業利益は10億1千7百万円(前年同期比20.9%減)となりました。

#### <情報・電気電子産業関連分野>

情報産業関連分野は、粉碎トナー用バインダーが欧州不況などにより需要が低調に推移したものの、重合トナー中間体ポリエステルビーズは生産拠点の鹿島工場(茨城県神栖市)が東日本大震災により被災した影響が解消されたことなどにより、売り上げを伸ばしました。

電気電子産業関連分野は、FPD(フラットパネルディスプレイ)用樹脂の需要が減少したことに加え、アルミ電解コンデンサ用電解液やシリコンウエハ製造用薬剤の需要が低迷を続けているため、売上高が大幅に減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は101億4百万円(前年同期比6.9%減)、営業利益は2億7千5百万円(前年同期比39.6%減)となりました。

<環境・住設産業関連分野他>

環境産業関連分野は、主力の高分子凝集剤において新製品の本格的販売を開始したことに加え、東日本大震災のため十分な生産・出荷ができなかった影響が解消されましたが、需要が低迷し、売り上げは横ばいとなりました。

住設産業関連分野は、家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料の海外向け販売が低調に推移しました。また、建築シーラント用原料やセメント用分散剤原料の需要は堅調でしたが、一部製品において東日本大震災の影響による応援(受託)生産が無くなったこともあり、売上高は大幅に減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は83億5百万円(前年同期比11.5%減)となりましたが商品構成の良化もあり、営業損益は5千9百万円の損失(前年同期は8千8百万円の損失)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は、時価評価による投資有価証券の減少はあったものの、借入による現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて17億8千7百万円増加し1,509億8千4百万円となりました。

また、純資産は前連結会計年度末に比べて6億2千7百万円減少し898億9千8百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末から1.0ポイント低下し57.5%となりました。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末残高と比較し14億5千2百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末残高は108億1千3百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、72億6千8百万円(前年同期は36億9千6百万円の増加)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益32億3千2百万円、仕入債務の増加12億1千9百万円、減価償却費43億1千9百万円などによる資金の増加が、たな卸資産の増加17億4千1百万円などによる資金の減少を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、60億6千2百万円(前年同期は54億2千9百万円の減少)となりました。これは、固定資産の取得に59億5千4百万円を支出したことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は、3億3千4百万円(前年同期は11億9千9百万円の減少)となりました。これは配当金の支払い8億2千7百万円などにより資金が減少する一方、短期借入金により13億5千3百万円資金が増加(純額)したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありませんが、「グローバルに、ユニークな優良企業グループ」を目指す第8次中期経営計画(2011~2014年度)の達成に向け、引き続き企業体質の抜本的な改革と基盤の強化に努めてまいり所存です。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は23億8百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	257,956,000
計	257,956,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	117,673,760	117,673,760	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	117,673,760	117,673,760	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日 ～平成24年9月30日	—	117,673	—	13,051	—	12,191



## (6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
豊田通商株式会社	名古屋市中村区名駅4-9-8	21,431	18.21
東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1	19,133	16.26
株式会社日本触媒	大阪市中央区高麗橋4-1-1	5,529	4.70
JXホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町2-6-3	5,306	4.51
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブアカウント アメリカン クライアント (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK  (東京都中央区日本橋3-11-1)	3,978	3.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	3,691	3.14
三洋化成従業員持株会	京都市東山区一橋野本町11-1	2,582	2.20
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リューエス タックス エグゼンプテド ペンション ファンズ (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK  (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,545	1.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,472	1.25
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	1,206	1.02
計	—	65,875	55.98

(注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) 3,691,000株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) 1,472,000株は、信託業務に係る株式であります。

2. 上記の大株主の状況には、自己株式 (7,378,105株) は含まれておりません。

3. サンダーソン・アセット・マネージメント・リミテッドから平成23年4月6日付で大量保有報告書の写しの送付があり、平成23年3月31日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
サンダーソン・アセット・マネージメント・リミテッド	英国ロンドン、ダブリュー1エス3ピーアール、セヴィルロウ20、ヒースコートハウス	6,017	5.11

4. 三井住友信託銀行株式会社から、平成24年9月6日付で大量保有報告書に係る変更報告書の写しの送付があり、平成24年8月31日現在で三井住友信託銀行株式会社、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社および日興アセットマネジメント株式会社を共同保有者として、以下の株式を所有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その変更報告書の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	住 所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	2,800	2.38
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝3-33-1	266	0.23
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂9-7-1	1,745	1.48
計	—	4,811	4.09

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 7,378,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式 (その他)	普通株式 109,684,000	109,684	同上
単元未満株式	普通株式 611,760	—	—
発行済株式総数	117,673,760	—	—
総株主の議決権	—	109,684	—

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
三洋化成工業(株)	京都市東山区一橋野本町11番地の1	7,378,000	—	7,378,000	6.27
計	—	7,378,000	—	7,378,000	6.27

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、当四半期累計期間において役員の変動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,360	10,813
受取手形及び売掛金	※3 42,567	※3 42,229
商品及び製品	8,513	10,621
半製品	4,089	3,806
仕掛品	516	363
原材料及び貯蔵品	3,965	4,062
繰延税金資産	1,021	1,011
その他	871	1,174
貸倒引当金	△36	△35
流動資産合計	70,869	74,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,919	16,112
機械装置及び運搬具（純額）	24,267	24,108
土地	8,469	8,473
建設仮勘定	4,534	5,569
その他（純額）	1,252	1,198
有形固定資産合計	54,443	55,462
無形固定資産		
ソフトウェア	655	621
その他	384	380
無形固定資産合計	1,039	1,001
投資その他の資産		
投資有価証券	21,436	19,075
長期貸付金	3	2
繰延税金資産	304	314
その他	1,145	1,126
貸倒引当金	△45	△46
投資その他の資産合計	22,843	20,471
固定資産合計	78,326	76,936
資産合計	149,196	150,984

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 27,515	※3 28,778
短期借入金	4,911	6,308
1年内返済予定の長期借入金	3,398	3,232
未払費用	3,141	3,436
未払法人税等	330	937
賞与引当金	1,177	1,418
役員賞与引当金	60	40
設備関係支払手形	2,810	2,093
その他	3,511	※3 3,451
流動負債合計	46,854	49,696
固定負債		
長期借入金	6,927	7,304
繰延税金負債	367	—
退職給付引当金	2,953	2,622
役員退職慰労引当金	630	473
その他	936	989
固定負債合計	11,815	11,388
負債合計	58,670	61,085
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,051	13,051
資本剰余金	12,194	12,194
利益剰余金	64,623	65,706
自己株式	△5,698	△5,699
株主資本合計	84,170	85,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,329	3,670
為替換算調整勘定	△2,203	△2,082
その他の包括利益累計額合計	3,126	1,587
少数株主持分	3,229	3,058
純資産合計	90,526	89,898
負債純資産合計	149,196	150,984

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	71,031	70,681
売上原価	58,343	58,451
売上総利益	12,688	12,230
販売費及び一般管理費	※ 9,313	※ 9,244
営業利益	3,375	2,986
営業外収益		
受取利息	31	24
受取配当金	210	312
持分法による投資利益	585	309
不動産賃貸料	169	164
その他	115	141
営業外収益合計	1,113	952
営業外費用		
支払利息	124	170
たな卸資産廃棄損	24	179
為替差損	91	56
その他	56	76
営業外費用合計	297	482
経常利益	4,191	3,456
特別利益		
投資有価証券売却益	0	66
固定資産売却益	0	1
受取保険金	58	42
補助金収入	157	—
特別利益合計	216	110
特別損失		
固定資産除却損	157	312
投資有価証券評価損	2	20
その他の投資評価損	—	0
貸倒引当金繰入額	1	1
特別損失合計	161	334
税金等調整前四半期純利益	4,246	3,232
法人税等	1,279	1,112
少数株主損益調整前四半期純利益	2,967	2,119
少数株主利益	498	209
四半期純利益	2,468	1,910

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,967	2,119
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△986	△1,658
為替換算調整勘定	33	150
その他の包括利益合計	△953	△1,508
四半期包括利益	2,013	611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,481	372
少数株主に係る四半期包括利益	532	238



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,246	3,232
減価償却費	4,383	4,319
固定資産除却損	157	312
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△152	241
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△312	△330
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△157	△157
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△48	△20
受取利息及び受取配当金	△242	△336
支払利息	124	170
持分法による投資損益 (△は益)	△585	△309
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△1
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△66
投資有価証券評価損益 (△は益)	2	20
その他の営業外損益 (△は益)	△352	△215
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,511	395
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,546	△1,741
その他の資産の増減額 (△は増加)	△314	△648
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,906	1,219
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△149	146
未収消費税等の増減額 (△は増加)	28	7
その他の負債の増減額 (△は減少)	163	320
小計	4,640	6,559
利息及び配当金の受取額	611	1,016
利息の支払額	△124	△170
その他	346	35
法人税等の支払額	△1,776	△172
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,696	7,268
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△12	—
固定資産の取得による支出	△5,262	△5,954
固定資産の売却による収入	1	1
投資有価証券の取得による支出	△23	△3
投資有価証券の売却による収入	0	107
貸付けによる支出	△0	△1
貸付金の回収による収入	0	1
その他	△132	△213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,429	△6,062

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	1,032	1,353
長期借入れによる収入	608	2,000
長期借入金の返済による支出	△1,680	△1,779
自己株式の取得による支出	△2	△1
配当金の支払額	△826	△827
少数株主への配当金の支払額	△330	△410
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,199	334
現金及び現金同等物に係る換算差額	△132	△88
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,064	1,452
現金及び現金同等物の期首残高	12,044	9,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 8,979	* 10,813

**【会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更】**

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

**【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】**

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

燃料ガス売買代金の支払に係る債務保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
サンライズ・ケミカルLLC	7百万円 (90千米ドル)	サンライズ・ケミカルLLC	7百万円 (92千米ドル)

金融機関借入に伴う債務保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
サンライズ・ケミカルLLC	136百万円 (1,666千米ドル)	サンライズ・ケミカルLLC	64百万円 (833千米ドル)

- 2 当社においては、資金調達をより確実なものとするため取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
貸出コミットメントの総額	6,000百万円	8,000百万円
借入実行残高	—	—
差引額	6,000	8,000

- ※3 四半期連結会計期間末日満期手形及び確定期日現金決済（手形と同条件で手形期日に現金決済する方法）の会計処理は、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期分が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形及び売掛金	3,490百万円	3,636百万円
支払手形及び買掛金	4,852	4,356
その他(設備未払金)	—	10

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
運送費・保管料	2,626百万円	2,627百万円
給与・報酬	1,427	1,455
役員賞与繰入額	40	40
従業員賞与	481	480
退職給付費用	170	157
福利厚生費	434	442
減価償却費	176	139
研究開発費	2,430	2,308

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	8,992百万円	10,813百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△12	—
現金及び現金同等物	8,979	10,813

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月16日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成23年3月31日	平成23年5月31日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成23年9月30日	平成23年12月1日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月14日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成24年3月31日	平成24年6月4日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	合計
	生活・健康産業関連分野	石油・輸送機産業関連分野	プラスチック・繊維産業関連分野	情報・電気電子産業関連分野	環境・住設産業関連分野他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	25,627	15,457	9,699	10,857	9,389	71,031	—	71,031
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	16	—	93	110	△110	—
計	25,627	15,457	9,716	10,857	9,483	71,142	△110	71,031
セグメント利益又は損失(△)	1,677	44	1,285	456	△88	3,375	—	3,375

(注) セグメント利益又は損失の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	合計
	生活・健康産業関連分野	石油・輸送機産業関連分野	プラスチック・繊維産業関連分野	情報・電気電子産業関連分野	環境・住設産業関連分野他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	26,606	16,910	8,755	10,104	8,305	70,681	—	70,681
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	14	—	135	150	△150	—
計	26,606	16,910	8,769	10,104	8,440	70,831	△150	70,681
セグメント利益又は損失(△)	1,176	577	1,017	275	△59	2,986	—	2,986

(注) セグメント利益又は損失の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月 30 日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	22円38銭	17円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	2,468	1,910
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	2,468	1,910
普通株式の期中平均株式数 (千株)	110,302	110,296

(注) 潜在株式調整後 1 株あたり四半期利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成24年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額……………827百万円
- (ロ) 1 株当たりの金額…………… 7 円50銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成24年12月 3 日

(注) 平成24年 9 月 30 日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

三洋化成工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柳 年哉 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三洋化成工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三洋化成工業株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【会社名】	三洋化成工業株式会社
【英訳名】	SANYO CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 安藤 孝夫
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	京都市東山区一橋野本町11番地の1
【縦覧に供する場所】	三洋化成工業株式会社 東京支社 (東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル) 三洋化成工業株式会社 大阪支社 (大阪府中央区本町一丁目8番12号日本生命堺筋本町ビル10階) 三洋化成工業株式会社 名古屋営業所 (名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号名古屋三井ビル本館16階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

(注) 上記の東京支社、大阪支社及び名古屋営業所は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役 安藤 孝夫は、当社の第89期第2四半期（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。